

印象に残った。

その夜から始まった合宿稽古は風林火山の旗印の下、全員が一致団結して火の玉となり、凍りつく海で洗礼を受けた。竹田理事の掲げた山の軍旗に一丸となっていた参加者の氣迫が連鎖して大きな氣の流れを作動させ夜間の氷雨は汗の露と化した。

さらに二十八日、アメリカ武徳祭が厳粛に開始された。顕彰会として他界したキム剣道教士の国旗献上式が無言の静寂と尊嚴の気持ちで張り詰める中で実施された。聞こえていたのは夫人のせせりなく涙と惜しまれる武人への旅立ちに対する祈りの声であった。祓いの形から始まり厳肅な形で次々と繰り出された演武は実に見事で簡潔であった。参加者の氣迫と意気込みが感じられたのは大自然で受けた偉大な力であったかも知れない。

その後休みなく合宿稽古が連続して実施され、烈火の氣合の音が枯れることなく大西洋の海原と共にその力を増していった。夕刻には記念晩さん会が実施され全員が五十周年記念の祝宴を楽しんだ。五十年前の友の中には既に多く散って行った者もいたが、再会を果たした者達は武道の世界がもたらしたゆるぎない契りと友愛を感謝していた。

翌朝、体感温度零下六度の激寒の中、凍りつく砂と白波を立てる波、皮膚を突き抜ける寒風にもかかわらず誰もひるむものはいなかった。大西洋の遙か彼方、水平線に張り詰めた雲の間からゆっくりと昇り始める壮大な太陽を見た瞬間の気合いは生命の歡喜の瞬間であった。そこそが全員で体験する事が出来た武徳の魂と美と真実であったと確信する。

かくしてアメリカ支部五十周年記念武徳祭と記念合宿は忘れる事がない無限の感動と同胞愛を感じとった不滅の武徳精神としてその歴史の一ページとなった。次の五十年間はどのような世界となり、大日本武徳会がどのように発展しているかはあの偉大な巨石が静かに淡々と見守ってくれると信じた。

最後にこの半世紀に及びご協力ご賛同、ご尽力いただきました本会の先生方、国際部の会員各位、アメリカ支部会員各位、全ての関係者各位に対して深く感謝致します。今回の本事業に対して多大なご尽力、貢献とご努力をしていただき、本会からの軍旗指導者として大きな活躍をされた竹田豊先生に深く感謝致します。さらにあまりにも多大なご支援とご協力をいただきました桑原兵充副総裁には感謝の言葉が見つかりません。また本事業にご支援いただきました高田寛次先生、川村八朗先生、石本一平先生、又御協力していただきました理事各位にこの紙面をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

